船橋の変遷

ふなばし・舟橋・船橋・……

地名としては、『吾妻鏡』あづまかがみ（鎌倉幕府の事跡を書いた史書）文治二年（西暦1186）三月十二日の条に「下総国院御領（後白河院の通説）、船橋御厨（みくりや）」荘園の年貢納入依頼で初見。当時は船橋御厨は無く、夏見御厨の別名として書かれたものとされている。

荘園と言えば、森鴎外の「山椒大夫」安寿姫・厨子王が偲ばれるが、平安から室町時代の貴族・社寺の私的領有地、地方豪族の寄進による立荘が盛んに成るが、鎌倉幕府の守護地頭制によって暫次武家に侵略され、南北朝の動乱以後急速に衰退、豊臣秀吉の時代に最終的に廃止となる。

また、日本武尊命が東征のさい海老川が渡れず、土地の人達が「舟の橋」を作って渡したの説も。

古の大昔は「下総国（しもうさのくに）葛飾郡（かつしかごおり）の五日市村（いつかいちむら）九日市村（ここのかいちむら）海神村（かいじんむら）の三大字を総称した地名であった。

江戸時代以降は、城下町＝封建制領主の居城を中心として、その近傍に発達した市街を設ける。

宿場町＝宿場（宿駅）を中心に発達した集落を設け、さらに助郷＝宿場（宿駅）に常備の伝馬・人足が不足する場合に指定されて応援の人馬を負担する近郷の郷村（定助郷・代助郷・増助郷・加助郷）を定めて備えていた。特に、佐倉道・房総往還・御成道を有する当市は多かったようです。

昭和12年に船橋町に葛飾町・八栄村・法典村・塚田村が合併して県内で４番目の市（8,431戸・43,363名）として発足。

また県としては、同時に勝浦町も触手を東に伸ばして豊濱村を合併した。大千葉・大銚子・大佐倉先発都市の後を受け、躍進県の二番手として産聲を挙げることとなった。

昭和28年に二宮町・昭和29年に豊富村と続いて合併し、人口も 111,136名と成った。

船橋市域の明治時代初めの町村

船橋の古事を偲ぶ略年表

1274	文永11	鎌倉時代　中山法華経寺　開山
1543	天文 5	金杉城・高根城・夏目城の記録あり
1586	天正14	秀吉太政大臣となる　豊臣姓を名乗る
1590	天正18	徳川家康北条に変わって関東支配
1591	天正19	家康「意富比神社」船橋大神宮50石寄進
1614	慶長19	御成街道　造成（家康東金での鷹狩り道）
1615	元和 1	大阪夏の陣豊臣滅亡　家康船橋御殿宿泊
1657	明暦 3	江戸焼失10余万の死者。俗に「振袖火事」
1673	寛文13	藤原新田　立村
1694	元禄 7	松尾芭蕉51才　旅の途中の大阪で死亡
1722	享保 7	八代吉宗　薬園台新田に30万坪の薬草園拓く
1793	寛政 5	九日市村（船橋市）478戸（漁師175）
1800	寛政12	〃　旅籠22・本陣1
1816	文化13	伊能忠孝全国の沿岸実測を完了
1831	天保 2	九日市村（船橋市）旅籠29・本陣1
1839	天保10	「蛮社の獄」渡辺華山（三河田原藤家老・画家）
1853	嘉永 6	東インド洋艦隊司令長官ペリー浦賀来航
1860	万延 1	咸臨丸（オランダ建造）米初横断に成功
1862	文久 2	「坂下門外の変」老中　安藤信正襲撃
1867	慶応 4	ノーベルトダイナマイト発明
1868	明治 1	戊辰戦争始まる。「市川・船橋戦争」も
1869	明治 2	スエズ運河開通
		小金牧廃止　二和・三咲開墾入植
1872	明治 5	陸・海軍の二省設置
1873	明治 6	明治天皇が近衛兵の「正船原」演習を観閲
1875	明治 8	明治天皇が船橋九日市の程原に御泊まりを
1876	明治 9	廃刀令
1877	明治10	西郷隆盛挙兵・西南戦争始まる
1879	明治12	琉球藩を廃止、沖縄県とする。
1880	明治13	大神宮境内に「灯明台」が完成
1890	明治23	船橋九日市で大火あり80戸消失
1902	明治35	騎兵13～16聯隊が編成完了
1904	明治37	ロシアに宣戦布告日露戦争始まる
1907	明治40	習志野原に「永久堡塁」を建設
1914	大正 3	第一次世界大戦始る・パナマ運河開通
1915	大正 4	「ニイタカヤマノボレ」海軍無線電信所竣工